

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4098400015
法人名	有限会社 M&Y
事業所名	グループホーム 銀杏の木
所在地 (電話番号)	福岡県八女郡広川町大字長延630-2 (電話) 0943-32-8050

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年12月18日	評価確定日	平成21年1月15日

【情報提供票より】(平成20年11月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	11人, 非常勤 4人, 常勤換算 13.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000円	その他の経費(月額)	(水道光熱費) 1日:300円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	11 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	72 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	柳病院 / 大石歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム銀杏の木は、ホームの名前に由来する、グリーンとクリーム・カラーを基調とした、個性豊かな建物で周辺に溶け込むように建っている。ホーム前の駐車場は広く、地域の美化活動の集合場所としても活用され、ホーム主催の「銀杏祭」などの開催時には、地域の方も参加し、地域との交流スペースとして親しまれている。地域との連携は年々高まり、地域の文化サークルである、しろかねネット(毎月1回開催)に入居者が参加するなど、これまでの暮らしと同様に日々の暮らしの中で、趣味や楽しみを満喫できるように支援している。グループホーム銀杏の木の特色の1つとして「アットホームな環境づくり」を掲げており、家族にとっては職員がハキハキと明るく、入居者のケアやサービス提供に日々努めている点が高く評価されており、今後の更なる展開が期待されるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、権利擁護の職員研修の充実や地域との連携が課題となっていた。評価結果を受け、社会保険労務士による講習会などを開催し研修の充実を図っている。また、地域との連携は、散歩時のゴミ拾いなどを行い地域に浸透し、地域活動の参加をはじめ、多様な取り組みを積極的にに行い連携を高めている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、管理者2名で日々のケアやサービス提供を振り返り作成している。全職員へは、外部評価の意義について理解を育てている段階である。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は定期的に2ヶ月に1回開催され、検討内容など詳細な議事録で確認でき、利用状況・行実施状況・研修報告・ホーム行事への参加のお誘いなど多彩なテーマで報告・意見交換を行っている。運営推進会議は、行政との連携・地域との連携の場として活かし、会議で出た意見や内容については、玄関横の掲示板に貼りだし、運営面での質の向上に活かせるように努めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	年1回、家族懇談会を開催し、家族の意見や意向を言っていただけるように努めている。日頃は面会時や状態に応じて電話などで報告し、その際に、家族とのコミュニケーションを図っている。また、運営推進会議にも家族の参加があり、意見や意向を把握できるように取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	区会に加入し、ホームの情報を回覧版で地域に発信するなど、地域に根づくグループホームを目指し、地域との交流・ふれあいを図っている。散歩時には、ゴミ袋を持参し、ゴミ拾いを行ったり、地域の文化サークル(しろかねネット)に入居者が参加するなど、地域住民として共に暮らす取り組みを積極的に行っている。また、今年度は地域の方の参加を呼びかけ、ホームの駐車場を利用し大々的に「銀杏祭」を行うなど、地域との連携を高めている。今後は更に地域密着型サービスとしての役割を果たしていくことが期待される。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、「自由・安らぎ・温もり」とし、「1.その人らしい暮らしができることを目標に共に歩んでいきます。2.安心して生活できる環境作りを行います。3.利用者の心を受け止め、常に感謝の気持ちを忘れずにありがとうと言える関係を築きます。4.地域の人たちとの出会い、ふれあいを大切にします」を掲げ、独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常的に散歩の際のゴミ拾いなどをはじめ、地域との交流・ふれあいに努め、理念にそったケアやサービス提供ができるように、職員は理念を念頭におき取り組んでいる。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	区会に加入し、ホームの情報を回覧で地域に発信するなど、地域に根づくグループホームを目指し、地域との交流・ふれあいを図っている。散歩時には、ゴミ袋を持参し、ゴミ拾いを行ったり、地域の文化サークルに入居者が参加するなど、地域住民として共に暮らす取り組みを積極的に行っている。また、今年度は地域の方の参加を呼びかけ、大々的に「銀杏祭」を行うなど、地域との連携を高めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を真摯に受けとめ、権利擁護の研修の充実、地域との連携づくりなど、改善に向けて取り組んでいる。外部評価に関して、管理者を中心に職員全員が外部評価の意義を理解できるように勉強会などで取り上げ理解を育んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催し、検討内容など詳細な議事録で確認でき、多彩なテーマで報告・意見交換を行っている。運営推進会議は、行政との連携・地域との連携の場として活かし、会議で出た意見や内容については、玄関横の掲示板に貼りだし、運営面での質の向上に活かせるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	八女地区介護保険事業者連絡協議会のグループホーム協議会に加入し、定期的に毎月1回、第3火曜日の勉強会に参加している。その際には、行政との情報交換を行うなど連携を図っている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	権利擁護の研修として、11月・12月には社会保険労務士による「権利擁護を目的とした制度」をテーマに講習会を実施している。ホームには、成年後見制度のパンフレットなどがファイル化され、情報提供ができる状況にある。今後は、家族や入居者へ積極的な情報提供を期待したい。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	面会の際に家族へ入居者の暮らしぶりや金銭管理などの報告を行っている。状況に応じて、電話での連絡も行っており、家族からはよく連絡をいただいていると好評である。また、「銀杏便り」などを定期的に発行したり、ホームでの様子がわかるように写真を送付している。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	年1回、家族懇談会を開催し、家族の意見や意向を言っていたけように努めている。日頃は、面会時や状態に応じて電話などで報告し、その際に、家族とのコミュニケーションを図っている。また、運営推進会議にも家族の参加があり、意向や意見を把握できるように取り組んでいる。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	基本的にユニット間での職員の異動は行わないように配慮している。日常的に入居者と職員のなじみの関係を大切にしており、離職の際などは、他のなじみの職員が入居者をサポートできるように取り組んでいる。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の募集・採用にあたっては、経験・未経験を問わず、働く意欲がある人を採用している。性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないように取り組んでいる。また、職員のスキルアップのために外部研修への参加を支援している。施設長や管理者は、職員が日頃の業務でストレスをためないように有給休暇を奨励し働きやすい環境づくりに取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	本年度の11月・12月に社会保険労務士による権利擁護の講習会を開催している。調査当日の職員の入居者への声かけは穏やかで入居者に寄りそった声かけを行っていた。今後は、人権の視点で入居者一人ひとりを尊重したケアのあり方などの研修が期待される。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	毎月1回、第3火曜日に開催される、八女地区介護保険事業者連絡協議会のグループホーム協議会の研修会に参加し、参加した管理者又は職員は研修内容を発表し、伝達研修を行っている。また、協議会では、施設見学・事例検討会・情報交換会を行い、職員のスキルアップを図る役割を果たしている。また、職員の資格取得のための書籍類も揃えバックアップ体制がある。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	八女地区介護保険事業者連絡協議会のグループホーム協議会に加入し、定期的に毎月1回、第3火曜日の勉強会に参加している。その際には、「周辺症状の取り組み」「ケアプランの作成」「グループホームの記録」など多彩なテーマで研修が行われ、サービスの質の向上を図ると共に、同業者の情報交換の場として活かし、ネットワークづくりに努めている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居者・家族が納得して入居できるように、見学や体験入居など状況に応じて、徐々に慣れていただくように取り組んでいる。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者にはできる範囲で役割を持っていただき、日々の暮らしの中で職員と共に掃除・洗濯物たたみ・モップがけ・調理の下ごしらえ・シーツ交換など行っていたい。入居者同士での散歩の際の車椅子補助や話し相手など、これまでの暮らしの継続を目指して取り組んでいる。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の暮らしの中で、入居者の生活歴・意向・要望などを把握するように努めているが、更なる掘り下げが求められる。今後はセンター方式を採用する予定があり、センター方式の活用により、日々の職員の気づきなども含め、意向や要望の把握に期待したい。</p>		<p>センター方式のツールの中で、入居者の状態変化や思いや意向を把握できるツールを選択し、日々の職員の気づきなど、できることから取組まれ、更に入居者の思いや意向を掘り下げていくことが求められる。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>実践可能な介護計画を作成し、短期目標の設定により、具体的な介護計画を作成している。日々の暮らしの中で、医療情報を活かした日々の観察が必要である。また、医療情報を介護計画に反映していくことも必要である。センター方式の活用を期待したい。</p>		<p>入居者の病歴を含めた心身の医療情報を基本に日々の観察を行い、介護計画に医療情報を活かしていくことが求められる。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な3ヶ月後の見直しを行っている。また、入院など状態変化が生じた場合は、その都度新たな介護計画を作成している。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入居者の要望に応じて柔軟にケアやサービスを提供している。今後は更に地域密着型サービスとして、地域へ向けて認知症の理解を高めるなど期待したい。また、今後は連携があるグループホーム桜並木との合同企画による、マンパワーを活かした取り組みなども期待したい。</p>		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居者本人・家族の希望により、かかりつけ医の受診を支援している。また、ホームドクターによる受診も月1回支援しており、適切な医療を受けられるように取り組んでいる。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化・終末期ケアの指針の説明を行い、看取りについては同意書を準備し、同意を得ている。看取りは家族と話し合いながら、意向にそった支援できるように取り組んでいる。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	入居者は自分達の大先輩として敬語や入居者に合わせて親しみを込めた方言を使うなど、入居者一人ひとりを尊重した言葉かけを行っている。入居者の記録や個人情報は、事務所の一定の場所に保管・管理している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	朝は起きてきた順番にお茶を飲んでいただき、食事を個別に取っていただくように取り組んでいる。日常的に日課として、リハビリ・歌体操などがあるが、一人ひとりのペースを尊重し、自由に自分のペースで過ごしていただけるように取り組んでいる。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食事はユニットごとに作り、ご飯の炊ける臭いや料理を作る音など、普通の家庭の食事と同様に生活感を大切にしている。また、季節感を感じていただくために春にはつくしやぜんまいなど料理に取り入れる工夫を行っている。食事の楽しみとして、ソーメン流しやバーベキュー・だんご作り・たこ焼き作りなども工夫している。誕生日も入居者の誕生日を基本に外食など食事を楽しみにしていただけるように取り組んでいる。調査当日は、入居者がエプロンをかけ、食事の後片づけを行っていた。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	毎日、入浴できるようにしているが、基本的に1日おきの入浴を支援している。入居者本人の希望を優先し、回数や入浴時間は意向にそって支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者の楽しみごととして、季節に応じてそうめん流しや焼き芋など味覚で季節感を感じていただけるように取り組み、誕生日には個別に外食やドライブなど意向にそって楽しんでいただけるように取り組んでいる。また、大船劇団舞踊ショーやボランティアによる楽器演奏などを楽しんでいただけるように取り組んでいる。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	天候によるが、散歩は毎日実施している。また、季節に応じて、桜・つつじ・藤・紫陽花などの花見見物に出かけている。近郊に花屋やコンビニがあり、買い物にも歩いて出かけており、ホームに閉じこもらないように支援している。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	職員は昼夜共に入居者を見守りやすい位置におり、入居者の様子・所在確認を行っている。玄関はセンサーを設置し、外出の察知ができ、鍵をかけないケアを実践している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	避難訓練は定期的に年2回行っているが、地域住民の協力・参加が求められており、運営推進会議で地域の方の協力・参加を依頼するなど取り組みが求められる。まずは避難訓練の見学など、できることからお願いしてはいかだろうか。		避難訓練はグループホーム独自で行うことも重要であるが、夜間など危険性が高く、地域の協力が求められている。運営推進会議でテーマとして取り上げるなど、今後の取り組みに期待したい。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	栄養バランスを配慮し、食材は業者に委託している。食事や水分の摂取量は記録に残し、必要量の確保に努めている。水分摂取量が不足する方は、ポカリスエット・紅茶・コーヒーなど好みの飲み物で調整している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	2ユニットの共用空間は、テーブルや椅子・ソファの配置など、それぞれ工夫があり、明るく清潔な空間となっている。各ユニットより、ウッドデッキのテラスへ出ることができ、バーベキューなどを楽しめるようになっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	入居者の居室の入り口には、施設長直筆の表札が一人ひとり掛けられ、住まいとしての工夫がある。居室は、明るく押し入れもあり、仏壇や箆笥を持ち込み、居心地よく過ごせる自分の空間となっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			